

年月日 平日＝2010年05月20日（木・雨のち晴）
休日＝2010年05月30日（日・晴）

回数 2009期・第12回平日巡礼＝20名
2010期・第1回休日巡礼＝29名

巡礼寺・順 ●四十九番札所・太梅寺（たいばいじ）

* 本尊・地藏菩薩 * 山号・神護山 * 曹洞宗 * 草創・1046(寛徳三年)

* 創立は真言宗の僧・桓舜が行脚した時に、ここの地勢を見て霊地であると知り、樹の下で一夜を過ごしたのが始まりでその後衰退、再興を繰り返し、1557(弘治三年)僧・実堂宗梅が曹洞宗に改宗し太梅寺と改める。

* 裏山に寺の鎮守、満福稲荷神社があります。

●四十八番札所・報本寺（ほうほんじ）

* 本尊・正観世音菩薩 * 山号・娑娑羅山 * 臨在宗・(建長寺・末寺)

* 草創・1326(嘉暦元年) * 通称・娑娑羅の山隋院さん

* 創立は真言宗・成就院の僧が、宝蔵院(八十一番札所)へ就く途中、ここが霊地である事を感じ開創した、その後現在地に移転したが衰退した、後(年代不明)に僧・松嶺(滋賀県・永源寺十三世)に随行して来た僧・哲叟が、臨濟宗として再興する。

* 「枝垂れ桜」と「おがたま」の木、共に天然記念物です。

●五十二番札所 曹洞院(そうとういん)

*本尊・釈迦如来 *山号・少林山 *曹洞宗 *草創・不明

*弘法大師修行の霊蹟

*創立年代等は、再度の火災で古記録等一切焼失したので不明だが弘法大師修行の霊蹟で真言宗の大刹であった。1525(大永五年)

曹洞宗に改宗され現在に至る。

*山門は元禄年間の火災で唯一焼失を免れた江戸様式で左甚五郎の作と言われる。

*四十七番札所 龍門院は無住の為此曹洞院でご朱印を頂く。

●五十三番札所 宝徳院(ほうとくいん)

*本尊・不動明王 *山号・仏谷山 *曹洞宗 *草創・859-877(貞観年中)

*歴史は古く、858(天安二年)中国・長安の青龍寺に学んだ、天台宗の智証大師・円珍が帰朝の際千体仏を積んだ船が遭難して、ここ吉佐美の浜に打ち上げられた、この千体仏を安置しようと草庵を建てたのが始まりで 1449(宝徳元年)現在地に移転、年号を寺名とし宝徳院と称した。

*裏の岩山に三十三観音、十六羅漢等の石仏群がある。

●五十四番札所 長谷寺(ちょうこくじ)

*本尊・阿弥陀如来 *山号・浦岳山 *曹洞宗 *草創 729-749(天平年間) *本尊・阿弥陀如来像は国の重要文化財(以前は国宝)

*行基の開創と伝えられ、真言宗で昌善寺と称したが、1545(天文十四年)長谷寺と改称 1655(明暦元年)曹洞宗に改宗し現在に至る。

*修復以前の天井画は今にも消えそうだったが近代技法で見事に修復されている。

距離(約)	3 Km + 4 Km + バス + 3 Km + 3 Km + 3 Km = 約 16 Km
タイム	裾野市役所 5 : 00 — 下土狩駅 5 : 20 — 龍門院 7 : 40 ~ 7 : 55 — 大梅寺 8 : 25 ~ 8 : 45 — 報本寺 9 : 40 ~ 10 : 10 — バス — みんなの店 — 下田駅 10 : 50 — 曹洞院 12 : 00 ~ 13 : 00 — 宝徳院 13 : 50 ~ 14 : 15 — 長谷寺 15 : 00 ~ 15 : 20 — 温泉
温泉	河内温泉(蓮台寺駅近く) = 金谷旅館千人風呂(1000 — ・平日700 —)
その他	法話 = 報本寺 2000 — (休日)、休憩 = 曹洞院 2000 — (平日)

朝、平日は雨、休日は曇り。前回最終の龍門院着。今日は2010期、最初の記念すべき巡礼日。従って休日参加者は多くバスは満員状態だった。初めての皆さんはやや緊張気味だったが、ここで最初のお勤めを済ます。この寺は無住職だが、お勤めを済ませておけば区切りがよい。

田植えが終わった田園風景の中、四十九番札所・大梅寺に上って行く。この道は婆娑羅峠（ばさら）を越え松崎に抜ける街道。峠上には婆娑羅山があり、その昔弘法大師が修行を重ねた伝説がある。トンネルの東側には「マンダラ」と言うカフェがあって「大師の聖水」と名付けられた湧水がある。ちなみに「婆娑羅」とは、

婆沙羅・婆佐羅などとも表記する。南北朝内乱期にみられる顕著な風潮で、華美な服装で飾りたてた伊達（だて）な風体や、はでで勝手気ままな遠慮のない、常識はずれのふるまい、またはそのようすを表す。また珍奇な品物などをも意味する。サンスクリット語の vajra バジラ（金剛・伐折羅（ばざら））から転訛（てんか）したことばといわれる。（中略）

（関連HP）



のんびり巡礼



大梅寺

30分ほどで観音温泉に入る信号を左折すれば大梅寺は近い。長い階段を上って行くと草ボウボウの境内に着く。余りの雑草に帰りは皆で「草むしりボランティア」をした。ここは住職はいるがよその寺と兼務で普段は住職の御母堂が一人で住んでいる。

平日時は寺に着きご朱印をお願いしたが、なかなか現れず探したがフトンから出たばかりだった。休日時は冊数が多いので、サポーターのAさんが先行し済ませた。

ここから更に街道を遡り、加増野の四十八番札所・報本寺に向かう。この辺りは静かな雰囲気が続く所でなかなかよらしい。見れば「ポ～レポ～レ」というソバ屋があり、ソバ打ち体験が出来るようだ。

「ポレポレ」とは、スワヒリ語で「ゆっくり」の意味。そう言えば昔、読んだ本に写真家の岩合光昭・日出子の「アフリカ・ポレポレ」があった。余談だが、人間を襲う肉食蟻の話は驚いた。

渋いワビ・サビの世界を彷彿とさせる苔むした階段を辿ると報本寺着。前回2年前はこの有名な「しだれ桜」が咲いていた。平日は奥様、休日は住職も在宅しお勤めを一緒に行ってくれた。奥様の話では檀家は100家程度でなかなか大変で住職は普段別の仕事に従事しているとのこと。

休日班で下田から参加しているN、Sさんは奥様の友人。住職は私の友人の下田のSさんと高校で山岳部が一緒だったという。



報本寺



住職

お勤めの後、住職にお話をいただく。般若心経の最後の部分の「・・・菩提薩婆訶・・・」の部分の(そ)＝掃除・・・誰でも綺麗なところが好き。(わ)＝笑い・・・笑顔が大切。(か)＝感謝・・・感謝の心が大事。と解釈、説明してくれた。初めて聞く解釈だったがまあ、それはそれで良いでしょう。

ここから巡礼は一旦バスに乗って下田駅に向かう。伊豆巡礼は基本的に「ひと筆描き」で全コースを歩く。しかし、ここだけは婆娑羅峠を越えると南伊豆方面が無理なコース取りになってしまいバスに乗る。歩きで下田駅に戻ればよいのだが、まあそこは余り無理をしないということです。

途中、地元のオバさん達がやっている「おふくろまんじゅう」店に寄る。この小麦饅頭・団子・混ぜご飯・ぼた餅は大好評で飛ぶように売れる。他にコンニャク・ワサビ・野菜もある。隣には授産所でやっている小物・陶器店がある。500円の一輪差しを結局3個購入してしまった。



下田駅から再び巡礼に移る。国道から北の山の手に向かい五十二番・曹洞院を目指す。休日時は先代の住職の法事で近隣の寺の住職が沢山来ていた。何処かでお会いした方がいると思ったら、玉泉寺の住職で「・・・ああ、巡礼の・・・」とだけ聞こえた。この方は体が大きいから沢山の中でも大いに目立つのです。

大広間で沢山のお客が食事を摂っていた。帰りに駐車場を見ると京都から精進料理店が来ていた。今日の料理の指導に来たのだろうか。私たちも平日・休日ともここで昼食・休憩を済ませた。

ここから大賀茂を通り五十三番・宝徳院に下って行く。大賀茂川を渡り右折すると寺は目前。



曹洞院の左甚五郎作と言われる山門



御母堂

ここまで来ると海が近く潮の香りが漂っている。寺は新しく綺麗。平日は副住職、休日は奥さんが対応してくれた。この寺の裏山には三十三観音と十六羅漢の石仏がある。一周するには20分ほど掛る。皆が羅漢を見学している間、奥さんが寺の説明をいろいろしてくれた。

阿羅漢（あらはん、サンスクリット：arhat）＝

仏教において、尊敬や施しを受けるに相応しい聖者のこと。サンスクリット語“arhat”の主格“arhan”の音写語。略称して羅漢（らかん）ともいう。漢訳は応供（おうぐ）である。もとは釈迦の尊称の一つであった。

中国・日本では仏法を護持することを誓った16人の弟子を十六羅漢と呼び尊崇した。また、第1回の仏典編集（結集（けつじゅう））に集まった500人の弟子を五百羅漢と称して尊敬することも盛んであった。ことに禅宗では阿羅漢である摩訶迦葉に釈迦の正法が直伝されたことを重視して、釈迦の弟子たちの修行の姿が理想化され、五百羅漢図や羅漢像が作られ、正法護持の祈願の対象となった。

（関連HP）



車地藏

寺を辞す。寺の入り口には珍しい「車地藏」がある。台座に車がありこれを回すと、六道の苦しみから救われると信じられた。

六道＝天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道。仏教において迷いあるものが輪廻するという、6種類の迷いある世界のこと。仏教では、輪廻を空間的事象、あるいは死後に趣（おもむ）く世界ではなく、心の状態として捉える。たとえば、天道界に趣けば、心の状態が天道のような状態にあり、地獄界に趣けば、心の状態が地獄のような状態である、と解釈される。

なお一部には、天狗など、この輪廻の道から外れたものを俗に外道（魔縁）という場合もある（ただし、これは仏教全体の共通概念ではない）。

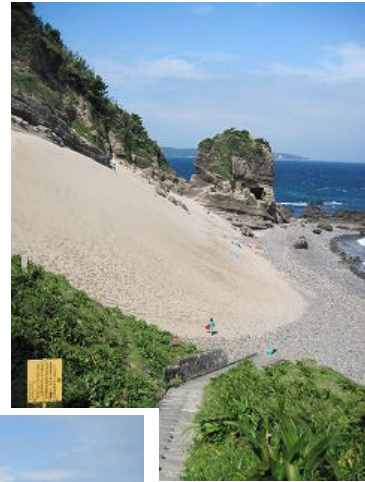
（関連HP）

少し南の八幡神社に寄る。ここには国天然記念物の「イスノキ」がある。ここから大浜に出て碁石ヶ浜沿いを歩く。平日時には多くのサーファーが遊んでいた。

田牛（とうじ）のサンドスキー場を見て竜宮公園に降りた。岩山の柔らかい部分が波の力で浸食され大きな穴が開いている。



サンド
スキー場



田牛海岸



ここから少し歩いて右折すると五十四番札所・長谷寺に着く。地味で小さなお寺だ。

ここのご本尊「阿弥陀如来座像」は平安末期のもので以前、国宝だった。ただ、現在は重要文化財。

1180年近くの浜に流れ着いたのを寺に祀ったと言われる。今日の巡礼はここで終了。温泉はまた、下田・金谷旅館。今日の巡礼も無事終わった。皆さんに感謝、そして合掌。

阿弥陀如来座像

